

届け 世界の果てまでも

令和2年 7月10日
No. 19
文責 校長 飯久保一男

子どもは親の姿を見ている



本紙 No.11 で、ドイツと日本の教育についてのコラムを紹介をしました。その中で

「ドイツでは子どもに生活上のルールを教えるのは親の仕事とされ、親が子どもに見本を示したり、他人への対応の仕方などを教えたりすることができなければ、親の役目はいったいどこにあるのか分からない。」

という言葉がありました。親の仕事・役目はドイツも日本も共通しています。日本では、古くからのことわざで、「親の背を見て子は育つ」といわれます。「子は親を映す鏡」という言葉もあります。

私の指導していたミニバスチームの話です。

休日に早朝から1日ばかりで遠征に行き、夜にホームとする学校の体育館に帰ってきました。(そのあと保護者の有志と居■屋に行く予定でしたので) 体育館前の駐車場でチームの子どもたち全員が帰るのを待ちました。保護者のお迎えを待つ子どもたちが残り、私たち指導者と保護者の数人でそれに付き合いました。

母A 母親が車で駐車場に入ってきました。子どもが「お母さんが来た」と言って、車に駆け寄っていきました。子どもが車に乗り込み、母親は車を出発させて帰っていきました。

母B 母親が車で駐車場に入ってきました。子どもが「お母さんが来た」と言って、車に駆け寄っていきました。母親は車を降りて、子どもと一緒に私たちに歩み寄り、「1日ありがとうございました」と親子で頭を下げて、車に乗って帰っていきました。



子どもが親の姿を見て育つとするならば、Bの母親の姿を見せてほしいと思います。子どものあいさつや返事、受け答えなどは、親が見本を見せることで子どももできるようになるものです。

…そのあと、居■屋で、私から保護者会長にこの話をしたこともあってか、私のチームではBの母親が見せた姿が普通になりました…。

【親子であいさつを交わしていますか】

毎朝、親子で「おはよう」のあいさつを交わしていますか。「おはよう」だけでなく、「行ってらっしゃい」「おかえり」「いただきます」「ごちそうさま」「おやすみ」など日常のあいさつをしていますか。毎朝、私に「校長先生、おはようございます！」と元気なあいさつをしてくれる子は、きっと家でも親子で毎日気持ちのいいあいさつを交わしているんだろうなあとと思います。

【親子でお互いに返事をしていますか】

子どもから呼ばれたときに親も返事をしていますか。教師が名前を呼んで「はい」と元気に返事をする子は、家で、親に呼ばれても気持ちのいい返事をしているのだろうと思います。「うん」ではなく「はい」と返事ができると気持ちよく思います。



【正しい受け答え・正しい言葉づかいの指導をお願いします】

言われたことや聞かれたことについての受け答えや正しい言葉づかいについては様々な場合がありますので、ここでは書き切れません。経験を積むことが一番の近道だと考えます。親子の会話の中に重要なポイントがあると思います。まず、言葉を正しくつかえるようにすることが大切です。気づいたときに、指導・注意できる大人がいると正しく言葉が使えるようになっていきます。気になることを2点だけあげておきます。

その1 親子の間では、俗にいうタメ口でもかまいませんが、目上には「です」「ます」などの丁寧な言葉づかいができることが必要です。中学年くらいからは、教職員に対して丁寧語をつかえるようにしてほしいものです。教職員に「です」「ます」をつかえることが、将来、目上につかえることにつながります。

その2 言葉を省略しない言い方の指導をお願いしたいと思います。「先生、トイレ。」と言って、トイレへ行かせてほしいことを担任に伝える子がいます。担任は「トイレへ行かせてください。」「トイレへ行ってきます。」という言い方が正しい言葉づかいであることを指導しています。



…家で食事中、台所にいるお母さんに、子どもが「お母さん、お茶。」と言ってきたらどうしますか。急須や湯飲み茶わんを運んでお茶を注いでやりますか？

- ① 「お茶がどうしたの？」と聞き返す。
- ② 「お茶をこぼしたの、それは大変。」とワザと慌てて拭きに行く。
- ③ 「お茶が欲しいなら欲しいと言いなさい！」とちゃんと知らせる。
- ④ 「それくらい自分でやりなさい！」と叱る…etc. 家庭でもご指導をお願いします。

【ちょっと脱線します】 親が子どもを、子どもが自分を、子どもが親を何と言えばいいでしょう。

…特にそうしなければいけないという決まりはありません。少し気になることです。

その1 自分の子どもを「〇〇くん」「□□ちゃん」と呼ぶ親をどう思いますか。特に人前では、親は、自分の子の名前呼び捨てにするほうが多いと思います。社会では、外部の人に対して上司であっても呼び捨てにする場合がほとんどです。

その2 子どもには自分を自分の名前前で言わず、「ぼく」「わたし」など、一人称で言うようにさせてほしいと思います。私は子どもたちに話すときでも、自分を「校長先生は…」「先生は…」と、敬称である「先生」と言うことに抵抗があります。あえて「校長先生は…」と言わなければならないとき以外は「私は…」とっています。

その3 子どもが、人前で自分の親を「パパ」「ママ」と呼ぶことはどうでしょう。小学生では「お父さん」「お母さん」と呼ぶほうが多いと思います。高学年になれば「父から聞いています」「母から預かってきました」という言い方ができてもいいと思います。大人になっても（特に男性で）親を「パパ」「ママ」と言う人がいたらどうですか。

「身内や自分を謙る」「公私を使い分ける」ということになるでしょうか。



【さらに脱線します】 実は省略された言葉たった…。

日本人は、言葉を省略することが好きなようです。実は「さようなら」「こんにちは」「こんばんは」なども言葉が省略されて生まれた言葉です。「さようなら」は「左様さようですか、それでは私はこれで失礼します」などという別れの言葉の最初の「左様ですか」と同じ意味の「左様ならば」から生まれたとされています。コンビニエンスストア→コンビニ、パーソナルコンピュータ→パソコンなど、省略した言葉のほうがよくつかわれる場合もあります。次の言葉を省略しないでいうとどうなると思いますか？（答えは欄外に）

- ①ボールペン
- ②食パン
- ③教科書
- ④切手
- ⑤軍手